

種の概要

北海道南部から九州、沖縄本島に分布する。前浜干潟や大型河川の河口端の砂泥・細砂干潟から潮下帯に生息する。殻長100mm、殻高15mmほどの扁平な筒状形で、前端、後端は裁断状である。殻表面は淡い黄褐色で、幼貝や若貝では透明感がある。潮の引いた干潟では、猫の目形の潜行孔に塩を振り落とし、飛び出してくるマテガイ採りの人気は高い。

主要な選定理由

| 人為性 | | | 生息環境の特殊性 | | 学術性 | | |
|-------|--------|--------|----------|-------|-------|-------|----|
| 個体数激減 | 分布域に影響 | 営利目的捕獲 | 特殊生息環境 | 地域的孤立 | 分布が極限 | 分布の限界 | 希少 |
| ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ |

県内分布

高砂市、姫路市、たつの市、赤穂市、洲本市、南あわじ市、淡路市

県内における生息状況及びその他特記事項

Cから要注目に変更。潮下帯においては、県内の海岸部に広く分布する。日本海側では干潟形成がなく、生息場所は潮下帯となる。播磨灘や淡路島では、サイズの揃った細砂が広がる前浜干潟や大きな川の延長上にできる細砂干潟に生息する。たつの市や姫路市に本種の生息に好適な前浜干潟が存在し、豊産するが、潮干狩り時の捕獲圧(特に若齢貝)は決して低くない。

保護上の留意点

潮通しがよく還元性の低い砂泥や細砂の比較的広い干潟に生息するが、県内では数箇所しか現存していないことから、これらの保全を徹底すること。また、浜は存在するが、塩通しが悪く還元環境になったことで、生貝が不在の干潟もあることから、潮通しを改善し、生息地の復活を試みる必要がある。本種の生息地の大半は潮干狩り場になっており、砂中に深く潜れない若齢個体は潮干狩り遊漁者の犠牲になりやすい。



写真提供：増田修



写真提供：増田修

【執筆者】 増田修